

教育理念と教育目的

社会学科の教育理念は、社会学の主要理論をベースに現代社会の実態を多角的に捉える知識と方法論を修得した人材を育成することである。変化し続ける社会現象の実態を複眼的に把握することを通して、社会への洞察力と批判的思考力を培い、現代社会のあり方を広い視野から問い直していくとともに、今後の人生を主体的に生き抜く力を身につけていくことが可能となるようなカリキュラムを設置している。

社会学という学問は、社会現象に対して特有のものの見方や考え方にに基づきアプローチしていくところにその特質がある。社会学科のカリキュラムは、社会学の理論や概念を幅広く学び、そうしたものの見方や考え方に慣れ親しみながら、現代社会の成り立ちやありようを深く理解していけるよう配慮されている。また、社会学の主要な対象領域に対応した「人間・社会」・「地域・社会」・「文化・社会」・「国際・社会」の4コースを設置し、社会学の理論や方法の現実への適用を図るとともに、自らの問題関心に応じて、掘り下げた視点から考察をおこなうことができるようになっている。社会の現実を客観的にとらえ、分析するための調査技法を修得する科目も用意されているので、意欲的に履修してほしい。

ディプロマ・ポリシー（学部および学科）

社会学部では「学士（社会学）」の授与に際して、所定の単位の修得と、学部および学科が定める能力の修得を要求している。学科にかかわらず要求されるのは以下の能力である。

1. 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
2. データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
3. 問題解決の方法を構想することができる。
4. それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

社会学科では、学部が指定する上記の要件に加えて、以下の能力を修得した学生に対して「学士（社会学）」を授与する。

1. 社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。
2. 社会調査をはじめとする経験的手法を用いて、変化し続ける社会の実態を科学的に捉えることができる。
3. 社会学の理論と方法を通して、より良い社会と人々の生き方を構想できる。

卒業要件

表 2-1 社会学科卒業要件（「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者）

区分・科目群			卒業所要単位		
総合科目	基礎演習		選択		
	視野形成科目		B 群から選択必修 4 単位以上		
	情報教育基礎		選択		
	保健体育科目	スポーツ総合 1	必修 2 単位		
		スポーツ総合 2	選択		
	外国語	Basic English 1・2	必修 4 単位（留学生以外）	◆留学生の場合◆ 選択必修 2 単位	
		諸外国語初級 A・B	必修 4 単位（留学生以外）		
日本語 1～3		◆留学生対象◆ 必修 6 単位			
専門科目	入門科目		選択必修 6 単位以上		
	学科共通科目	基礎科目	A 群	選択必修 6 単位以上	
			B 群	選択必修 12 単位以上	
		展開科目	選択必修 12 単位以上		
	コース専門科目	人間・社会コース	選択必修（1つのコースを選択） 18 単位以上		
		地域・社会コース			
		文化・社会コース			
		国際・社会コース			
	演習		選択		
	外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム		選択	
諸外国語選択科目					
自由選択科目					

注意しよう！

- ◆「入門科目」の卒業所要単位6単位は、2年次までに単位修得しなければならない（3年次への進級要件）。
- ◆「学科共通基礎科目」の卒業所要単位 12 単位のうち、6 単位は A 群の科目から単位修得しなければならない。
- ◆「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コースを選択した場合と、「国際・社会」コースを選択した場合とでは、卒業要件が大きく異なる。「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者は、「学科共通展開科目」12 単位の修得が必要となるのに対して、「国際・社会」コース選択者は、「学科共通展開科目」の単位修得が免除されるかわりに、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12 単位修得しなければならない。
- ◆「国際・社会」コース選択者が他のコースへ、あるいは他のコース選択者が「国際・社会」コースへコースを変更する場合には、それぞれのコースで卒業要件が異なることをふまえて、慎重に判断すること。
- ◆社会学科のカリキュラムで提供される科目のうち、社団法人社会調査協会所定の 14 単位を修得することにより、「社会調査士」資格を取得できる。詳しくは、第Ⅵ部の「社会調査士資格について」の項を参照のこと。

表 2-2 社会学科卒業要件（「国際・社会」コース選択者）

区分・科目群			卒業所要単位		
総合科目	基礎演習		選択		
	視野形成科目		B群から選択必修 4単位以上		
	情報教育基礎		選択		
	保健体育科目	スポーツ総合1	必修 2単位		
		スポーツ総合2	選択		
	外国語	Basic English 1・2	必修 4単位（留学生以外）	◆留学生の場合◆ 選択必修 2単位	
諸外国語初級 A・B		必修 4単位（留学生以外）			
日本語1～3		◆留学生対象◆ 必修 6単位			
専門科目	学科専門科目	入門科目		選択必修 6単位以上	
		学科共通科目	基礎科目	A群 選択必修 6単位以上	選択必修 12単位以上
			B群		
		展開科目		選択	
	コース専門科目	国際・社会コース		選択必修 18単位以上	
		人間・社会コース		選択	
		地域・社会コース			
		文化・社会コース			
	演習		選択		
	外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム		選択必修（左記プログラムのうちいずれか1つを選択）12単位 ※	
諸外国語選択科目		選択			
自由選択科目					

124単位以上

※「国際・社会」コース選択者は、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12単位修得すること。

注意しよう！

- ◆「入門科目」の卒業所要単位6単位は、2年次までに単位修得しなければならない（3年次への進級要件）。
- ◆「学科共通基礎科目」の卒業所要単位12単位のうち、6単位はA群の科目から単位修得しなければならない。
- ◆「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コースを選択した場合と、「国際・社会」コースを選択した場合とでは、卒業要件が大きく異なる。「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者は、「学科共通展開科目」12単位の修得が必要となるのに対して、「国際・社会」コース選択者は、「学科共通展開科目」の単位修得が免除されるかわりに、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12単位修得しなければならない。
- ◆「国際・社会」コース選択者が他のコースへ、あるいは他のコース選択者が「国際・社会」コースへコースを変更する場合には、それぞれのコースで卒業要件が異なることをふまえて、慎重に判断すること。
- ◆社会学科のカリキュラムで提供される科目のうち、社団法人社会調査協会所定の14単位を修得することにより、「社会調査士」資格を取得できる。詳しくは、第VI部の「社会調査士資格について」の項を参照のこと。

入門科目

社会学科での学びの導入として、主として1年次向けに「社会学への招待」「社会学入門A」「社会学入門B」「社会調査入門」の4つの科目を設置している。「社会学への招待」は、社会学科の教員によるオムニバス形式の科目で、各教員の専門分野にかかわるホットなテーマに触れながら、社会学という学問の輪郭をつかむ。「社会学入門A」「社会学入門B」は、2人の教員が連携して担当する科目で、様々な社会学の基本概念を学ぶことを通して、理論的な思考力を培うための基礎的な土壌を醸成する。「社会調査入門」では、社会学で用いられる社会調査という手法の基本的な考え方を学ぶ。

授業科目	単位数	履修年次	備考
社会学への招待	半期2単位	1～4年次	
社会学入門A	半期2単位	1～4年次	
社会学入門B	半期2単位	1～4年次	
社会調査入門	半期2単位	1～4年次	

入門科目：履修上の注意

入門科目6単位の修得が、3年次への進級要件である。2年次までに所要単位の修得を終えるよう計画すること。ただし、1年次のうちに4科目すべて（8単位分）修得しておくことが望ましい。

学科共通基礎科目

様々な社会現象を認識・把握するための理論的な思考力と方法論的な素養を醸成する科目群である。A群は、社会学の理論と方法にかかわる科目によって構成されている。そのうち理論科目では、今日まで社会学が蓄積してきた豊穡な諸理論をミクロ・マクロ両面から修得し、社会を洞察する視角を多面的に学ぶ。方法科目では、社会調査のより具体的な技法を修得するとともに、多様なデータを読み解くリテラシー能力を涵養する。B群は、社会学と密接に関連した隣接学問領域の科目によって構成されている。政治学やメディア社会学などの科目の修得を通して、幅広い社会科学的な視座の獲得を目指す。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	社会学理論 A I・A II	半期各2単位	2～4年次	
	社会学理論 B I・B II	半期各2単位	2～4年次	
	社会調査の方法	半期2単位	1～4年次	
	社会調査のリテラシー	半期2単位	1～4年次	
B 群	政治学理論 I・II	半期各2単位	2～4年次	
	組織論	半期2単位	2～4年次	
	メディア社会学基礎 A	半期2単位	2～4年次	
	メディア社会学基礎 B	半期2単位	2～4年次	
	メディア社会学基礎 C	半期2単位	2～4年次	
	特殊講義	半期2単位		

学科共通基礎科目：履修上の注意

卒業所要単位として学科共通基礎科目 12 単位を修得しなければならない。ただし、そのうち 6 単位は、A 群の科目から修得しなければならない。なお、A 群の方法科目である「社会調査の方法」と「社会調査のリテラシー」は、1 年次のうちに修得しておくことが望ましい。

学科共通展開科目

学科共通基礎科目で身につけた知識と素養の上に立って、社会学の理論と方法に関するより深い理解へと到達することが目指されている科目群である。アドバンスドな社会学の理論や方法を学ぶ講義科目のほか、「原典講読」、「社会学総合特講 A・B」、「外書講読（社会学）」といった少人数の受講者を想定した科目も用意されており、これらの科目の履修を通して焦点化されたテーマを掘り下げて学んでいく。また、アンケート調査や聞き取り調査といった社会調査を実際に試みる実習科目も置かれており、調査の設計から報告書の作成に至る一連の過程を経験することを通して、社会調査の醍醐味を体感することができる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
理論社会学	半期2単位	2～4年次	
社会学史Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
歴史社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
数理社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
公共性と民主主義Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
原典講読	半期2単位	2～4年次	
社会学総合特講 A	半期2単位	2～4年次	
社会学総合特講 B	半期2単位	2～4年次	
統計調査法	半期2単位	2～4年次	
社会調査実習	通年4単位	2～4年次	
調査研究法A	半期2単位	2～4年次	
調査研究法B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）1A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）1B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）2A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）2B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）3A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）3B	半期2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

学科共通展開科目：履修上の注意

「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者は、卒業所要単位として学科共通展開科目12単位を修得しなければならない。「国際・社会」コース選択者は、本科目群の単位修得が免除されるかわりに、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12単位を修得しなければならない。

コース専門科目

社会学科のカリキュラムには、社会学の主要な対象領域に対応した「人間・社会」・「地域・社会」・「文化・社会」・「国際・社会」の4コースが設置されている。学科共通基礎科目や学科共通展開科目の履修と並行しながら、コース専門科目を履修することによって、社会学の理論や方法の現実への適用について学ぶとともに、各自の問題関心を深く掘り下げていくことができる。

コースの選択は、2年次以降の社会学科での「学び」をどのようなものとするかに大きく関わる。また、途中で安易にコースを変更すると計画的な履修の障害となり卒業が難しくなるので、コースは慎重に選択しなければならない。各コースには、1年次から履修できる科目がそれぞれ2科目ずつ置かれている。それらの科目は各コースで学ぶことのできる対象領域に関する概論的な内容にもなっているので、1年次のうちにさまざまなコース専門科目を横断的に履修することで各コースのイメージをつかみ、理解を深めるとともに、コースを選択する際の参考にしてほしい。

社会学科のコース選択は、1年次秋学期に社会学部へ提出する「コース選択希望登録票」に基づきおこなわれる。「コース選択希望登録票」の提出に先立ち、入門科目の「社会学入門A」ならびに「社会学入門B」の授業内でコース選択のためのガイダンスを実施するので、必ず出席すること。

なお、やむを得ず、選択したコースの変更を希望する場合は、1年次～3年次の3月初旬にコース変更手続き期間が設けられているので、掲示を確認し、期間内に申請すること。

コース専門科目：履修上の注意

卒業所要単位として、選択したコースから18単位を修得しなければならない。なお、1年次に修得したコース専門科目のうち、各自の選択したコースに置かれた科目の修得単位については、この18単位に含めることができる。

人間・社会コース

現代社会における人の生き方や生活のありようを、発達と教育、ライフコースと家族、ジェンダーとアイデンティティ、エイジングと高齢社会などの主題を通して深く探求する。それを通して、個々人の置かれた社会環境や文化環境と心理や行為との相互関係を理解し、人間と社会のリアルな関係に真摯に向き合いながら、多様な諸個人よりなる、誰もが排除されない共生社会への道を模索する。

授業科目	単位数	履修年次	備考
人間・社会論	半期2単位	1～4年次	
ジェンダー論	半期2単位	1～4年次	
発達・教育の理論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
家族社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
臨床社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
社会心理学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
エイジングの社会学	半期2単位	2～4年次	
社会教育概論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

地域・社会コース

まちづくり、地球環境問題、都市デザイン、農業の再生、福祉社会の再構築、新しい働き方などの今日的テーマを自由に横断しながら、変容する現代社会において地域コミュニティがどのような役割を果たすべきか、その具体的な道筋を探究する。それを通して、住民参加型社会の促進、行政との協働、NPOやボランティアの充実化を見据え、これからの時代に求められる地域コミュニティをデザインする実践的な力を養う。

授業科目	単位数	履修年次	備考
コミュニティ・デザイン論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	1～4年次	
グローバル社会のローカリティ	半期2単位	2～4年次	
市民運動論	半期2単位	2～4年次	
環境社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
現代農業・農村の社会学	半期2単位	2～4年次	
地域環境論	半期2単位	2～4年次	
都市空間とデザインⅠ	半期2単位	2～4年次	
福祉社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
産業社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

文化・社会コース

日々の社会生活を形作るさまざまな実践や、メディア空間の中に生み出されていく表象やイメージを「文化」という視点においてとらえ、私たちの生きている世界が「意味」に充ちた現実として生成していく過程を明らかにしていく。社会学、文化人類学、表象文化論、コミュニケーション論などの観点から、宗教やスポーツ、文学や芸術、広告やジャーナリズムといった多様な対象にアプローチし、現代社会のリアリティを鋭く、奥深く読み解く力を養う。

授業科目	単位数	履修年次	備考
文化社会学A	半期2単位	1～4年次	
文化社会学B	半期2単位	2～4年次	
表象文化論A	半期2単位	1～4年次	
表象文化論B	半期2単位	2～4年次	
文化人類学	半期2単位	2～4年次	
宗教社会学	半期2単位	2～4年次	
スポーツ文化論	半期2単位	2～4年次	
メディア文化論	半期2単位	2～4年次	
メディアの歴史	半期2単位	2～4年次	
メディアの思想	半期2単位	2～4年次	
社会問題とメディア	半期2単位	2～4年次	
広告・消費文化論	半期2単位	2～4年次	
ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

国際・社会コース

グローバル化が進む現代において、私たちは国際社会についてどう考えていくべきか、人の移動、移民や難民、国民国家とナショナリティ、人種と民族・エスニシティ、国際関係、開発と国際協力、人間の安全保障など、国際社会をめぐる多様な主題を通して、国際社会学や地域研究などの視角から探究する。その際、国際社会との関わり方や国際社会における日本のあり方も含めて考察することにくわえて、母語以外の言語とその文化に親しむことで国際的な視野と感受性を養う。

授業科目	単位数	履修年次	備考
国際社会と日本	半期2単位	1～4年次	
国際社会と言語文化	半期2単位	1～4年次	
国際社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
国際関係論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
国際社会と民族	半期2単位	2～4年次	
開発とジェンダー	半期2単位	2～4年次	
国際協力論	半期2単位	2～4年次	
イスラム社会論	半期2単位	2～4年次	
地域研究（ヨーロッパ）	半期2単位	2～4年次	
地域研究（アジア）	半期2単位	2～4年次	
地域研究（中国）	半期2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

履修モデル

図2-1 「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者・図2-2 「国際・社会」コース選択者)には、社会学科を卒業するために、各科目群からどのように単位を修得すればよいか、年次ごとの標準的なモデルを示した。履修計画を立てる際に参考にしてください。

図2-1 社会学科を卒業するまで(「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コースを選択した場合)

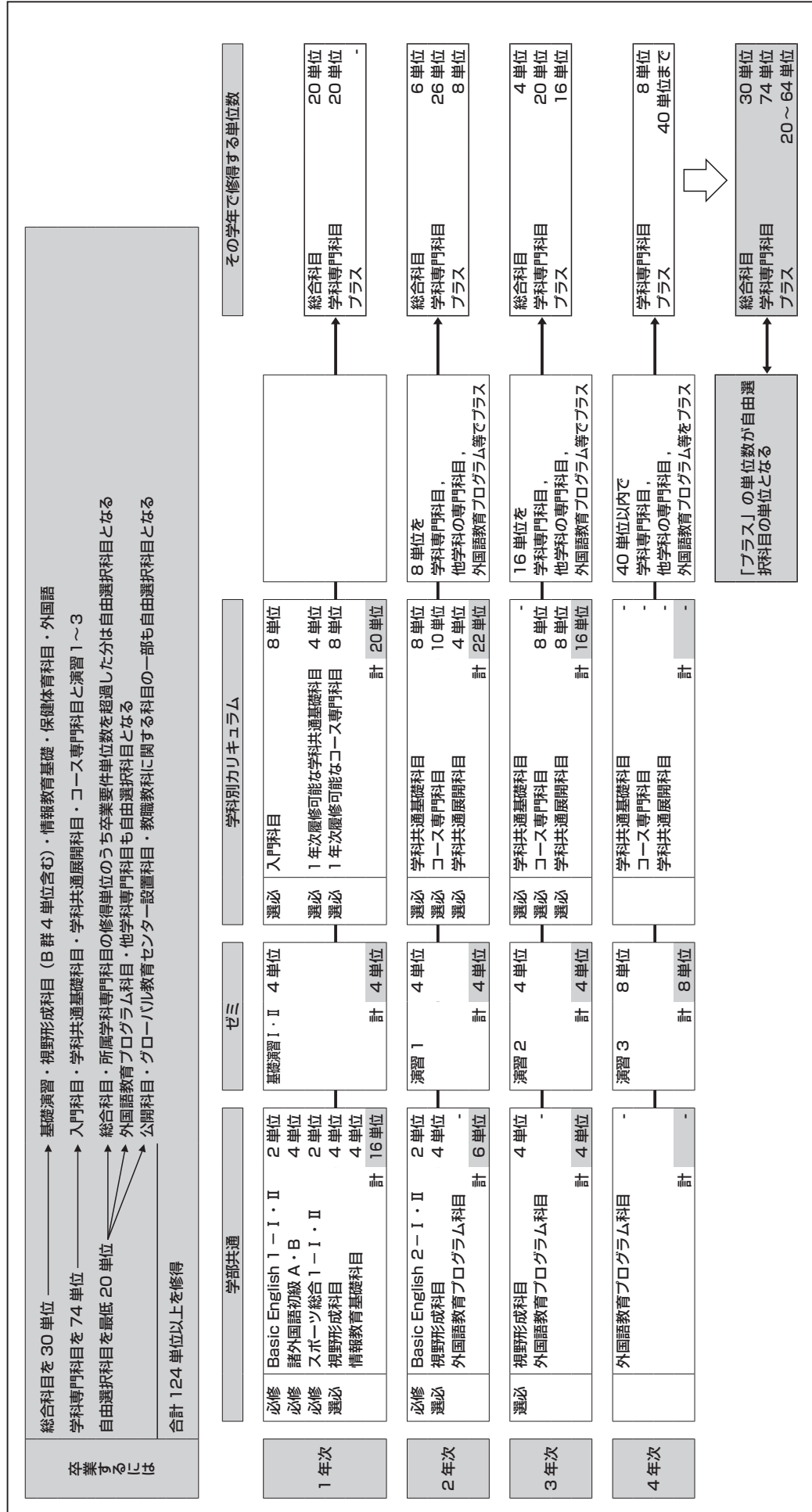
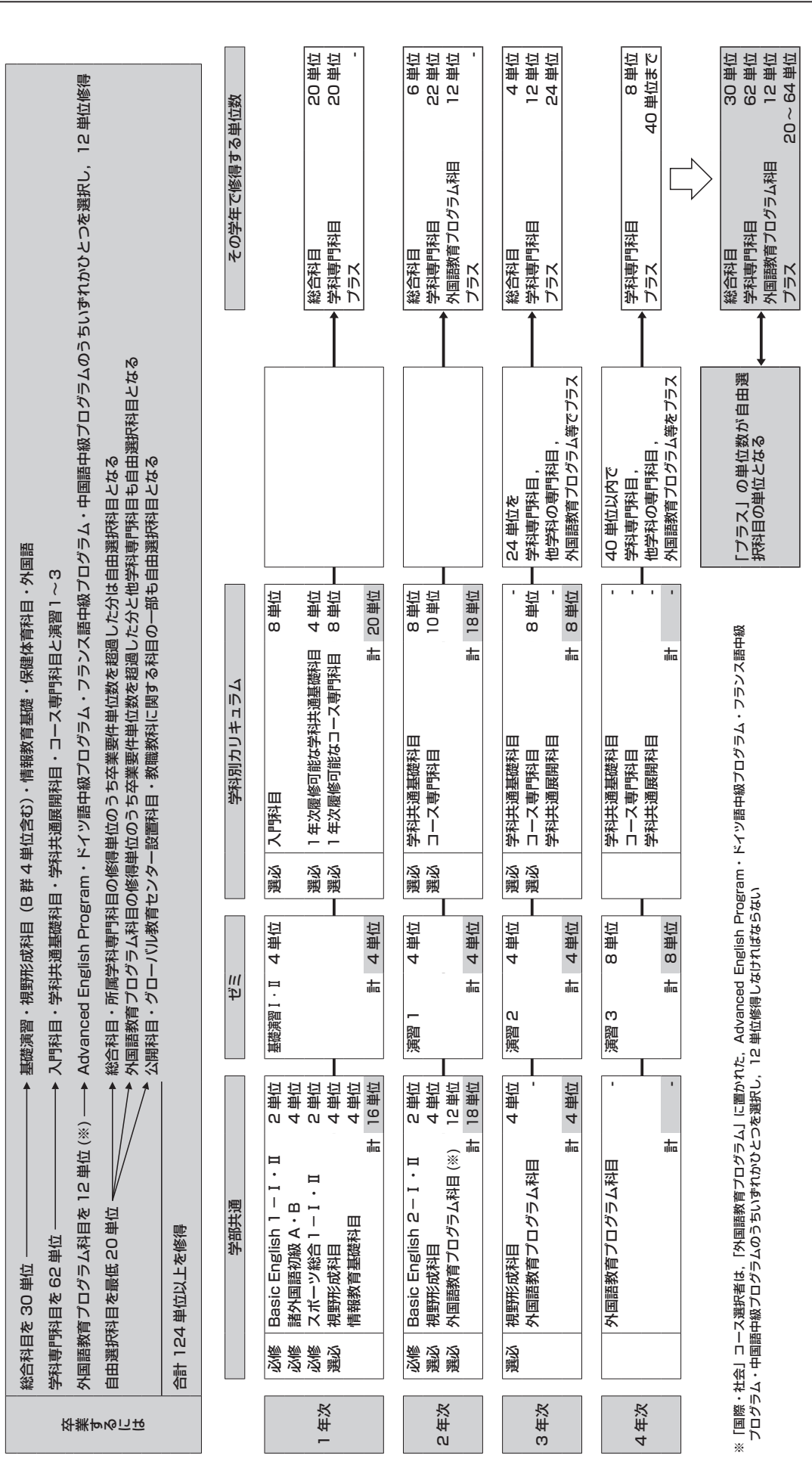


図2-2 社会学科を卒業するまで（「国際・社会」コースを選択した場合）



履修計画を立てるにあたり、社会学科の提供するカリキュラムを通してどのような能力を身につけ、それを将来の自分の姿とどのように結びつけていくかをイメージしてみることも重要である。図2-3～図2-5に、卒業後の進路を想定した科目履修の組み立て方を例示したので参考にしてほしい。

図2-3 履修モデル：社会調査士資格の取得を生かした進路を目指す

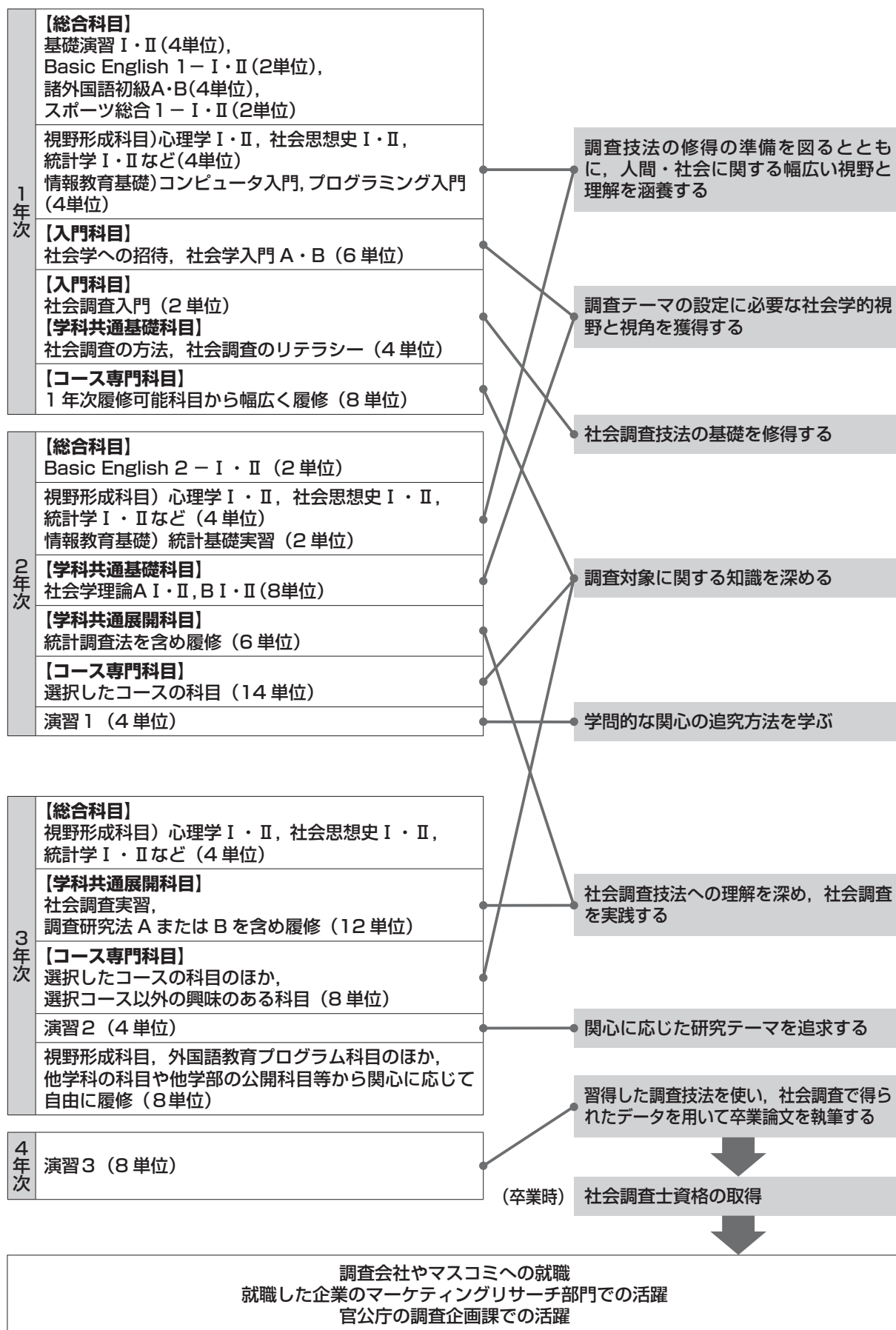
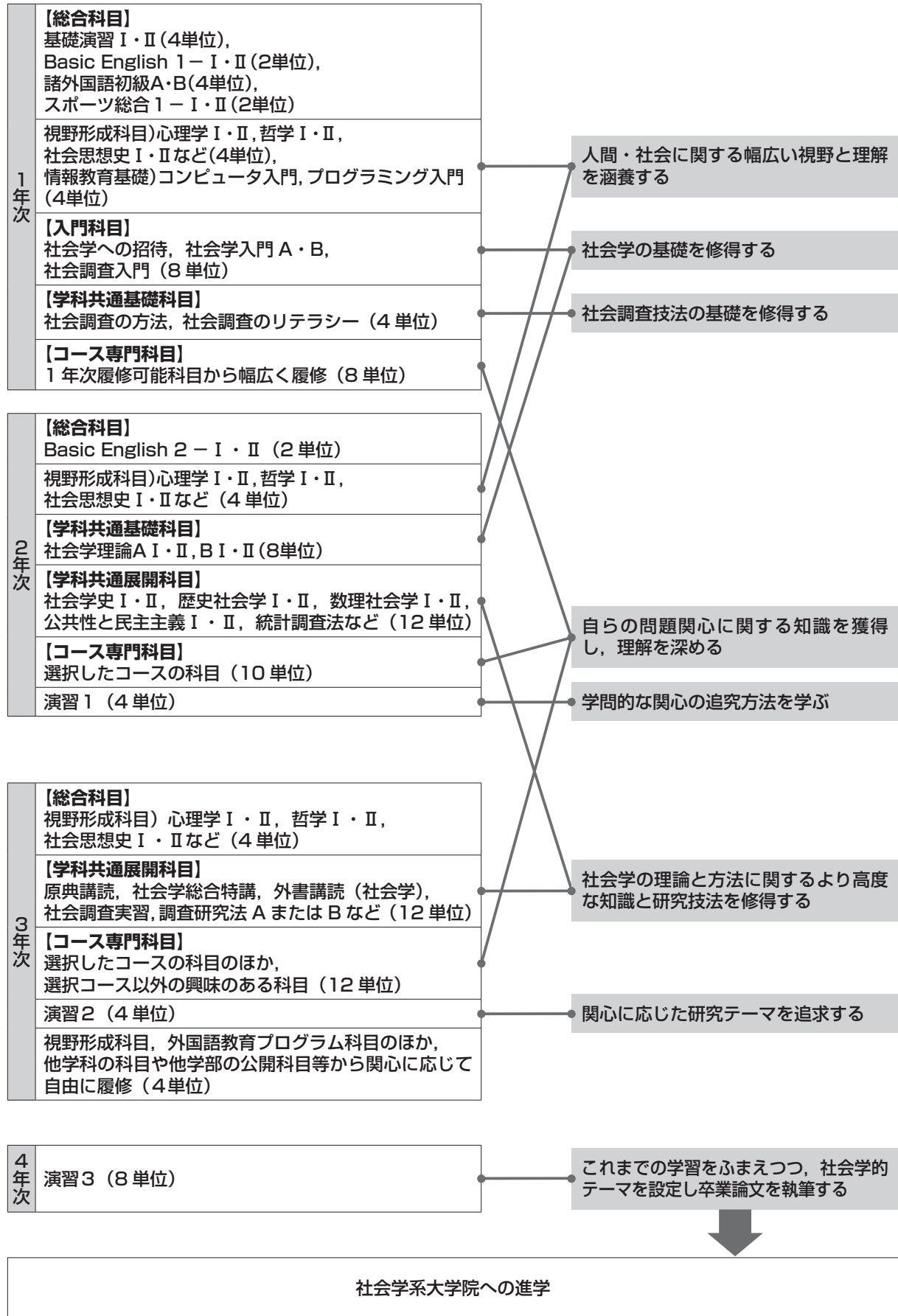


図2-4 履修モデル：社会学系大学院への進学を目指す

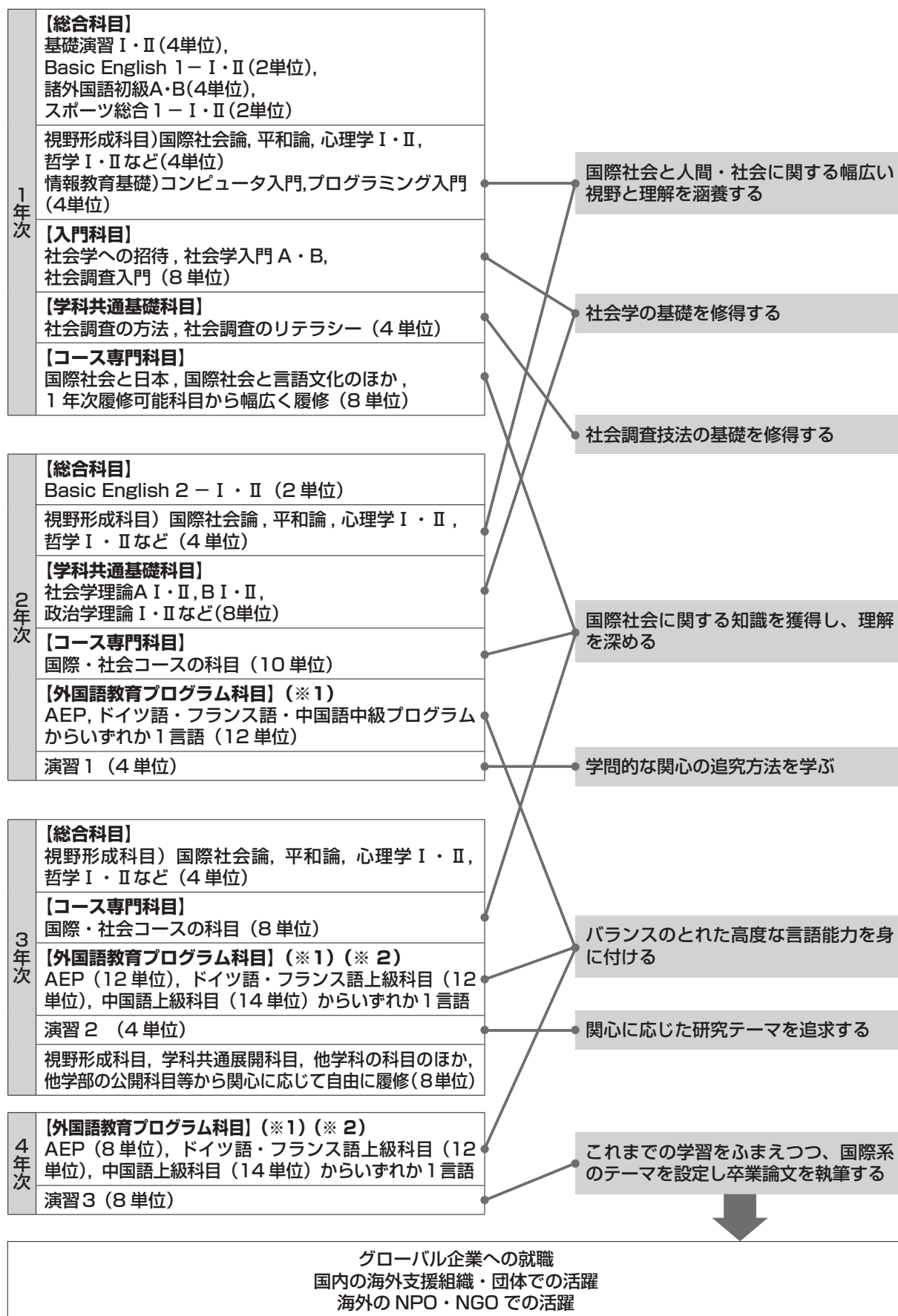


社会政策科学科

社会学科

メディア社会学科

図2-5 国際的な舞台での活躍を目指す



(※1) 在学中に、SA プログラム (英・中) や休暇期間を利用した社会学部独自の外国語研修機関への留学プログラム (独・仏) への参加のほか、本学の派遣留学制度等を利用した海外留学に挑戦してみてもよいだろう。詳細は、第V部「海外で勉強するために」を参照のこと。

(※2) 語学の学習は継続性が肝要である。3・4年次に、英語選択者は2年次未履修のAEP科目、ドイツ語・フランス語・中国語選択者はそれぞれの言語の上級科目を、卒業所要単位にかかわらず、できるだけ多く履修することを推奨する。また、主に学習している言語のほか、スペイン語・ロシア語・朝鮮語といった言語 (II群言語) を含め他の言語に挑戦してみてもよいだろう。

社会政策科学科

社会学科

メディア社会学科

外国語教育プログラム

必修外国語科目で身につけた基礎的な語学力を土台として、外国語のより高度な知識と運用能力を養うことを目的とするプログラム。「Advanced English Program」「諸外国語中級プログラム」「諸外国語選択科目」の3つの科目群から構成されている。それぞれ多様な科目が設けられており、各自の関心やレベルに応じて履修することができる。グローバル化の進む社会で求められる語学力の向上や、他の専門科目と連動した外国語の学習、各種の留学プログラムと関連づけた履修など、さまざまな目的で活用してほしい。

なお、社会科学の国際・社会コースを選択した場合は、「Advanced English Program」または「諸外国語中級プログラム」のいずれかから12単位以上を修得する必要がある（※「諸外国語選択科目」を除く）。

Advanced English Program

Advanced English Program (AEP) は、より高度な英語の理解力・運用能力を養うことを目的とし、研究活動に必要とされるアカデミックな英語の学習機会も提供する。AEP 科目は選択科目であり、テーマ・スキル別の科目編成と適正人数クラスが特徴である。中・上級向けの読み書き、翻訳、講読、プレゼンテーションやディベート、TOEFL・TOEIC の試験対策、演劇や比較文化など、テーマや目指すスキルの異なるバラエティ豊富な科目を組み合せながら学ぶことで、英語力を効率的・多面的に向上させることができる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
English Reading & Writing A I・A II	半期各2単位	2～4年次	
English Reading & Writing B I・B II	半期各2単位	2～4年次	
English Oral Communication I・II	半期各2単位	2～4年次	
English Drama I・II	半期各2単位	2～4年次	
Intensive TOEFL (R)	半期2単位	2～4年次	
Intensive TOEIC (R)	半期2単位	2～4年次	
Topics in Comparative Culture	半期2単位	2～4年次	
英語翻訳 A I・A II	半期各2単位	2～4年次	
英語翻訳 B I・B II	半期各2単位	2～4年次	
英語講読 A I・A II	半期各2単位	2～4年次	
英語講読 B I・B II	半期各2単位	2～4年次	
英語講読 C I・C II	半期各2単位	2～4年次	
英語講読 D I・D II	半期各2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

※ スタディ・アブロードプログラム (SA プログラム) に参加することによって認定される単位がある (詳細は 104 ～ 106 ページを参照すること)。

Advanced English Program : 履修上の注意

- ◆ Advanced English Program の履修には “Basic English 1- I ・ II” 計 2 単位の修得が必要である（「第 II 部 履修登録について」の「履修前提科目について」を参照）。ただし、1 年次対象の Basic English 1 単位認定試験に合格した者は 1 年次より履修することができる。
- ◆ Advanced English Program 科目はいずれも、受講に担当教員の許可を必要とする受講許可科目である。受講希望者は年度当初に示される手順にしたがって手続きを行うこと。手続きの方法はガイダンス日程表もしくは掲示で発表する。なお、科目ごとに受講許可の方法が異なる場合があるので注意すること。
- ◆ 科目名に A ～ D のアルファベット記号が付された科目は、そのいくつか、またはすべてを選択し、履修することができる。アルファベットは履修前提を示すものではないので、履修の順序は自由である。履修科目選択にあたってはシラバス等を参照のうえ各自で検討すること。

諸外国語中級プログラム

諸外国語中級プログラムは、ドイツ語、フランス語、中国語それぞれの運用能力を涵養し、言語の背景にある社会や文化、歴史等をより深く理解するために設けられている科目群である。コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「初級」で修得した基礎力を前提に、中級レベルの講読、文法、会話等の学習を通じて応用力を身につける。また、「上級」各科目の学習に必要な力の養成をはかる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
ドイツ語中級 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
フランス語中級 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
中国語中級 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ※	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
特殊講義	半期 2 単位		

※ スタディ・アブロードプログラム（SA プログラム）に参加することによって認定される単位がある（詳細は 104 ～ 106 ページを参照すること）。

諸外国語中級プログラム : 履修上の注意

- ◆ 諸外国語中級プログラムの履修には、「諸外国語初級 A・B」計 4 単位の修得が必要である（「第 II 部 履修登録について」の「履修前提科目について」を参照）。ただし、「諸外国語初級 A ・ B 単位認定試験」に合格した者は 1 年次より履修することができる。
- ◆ 諸外国語中級プログラム科目には、上記以外にも履修前提が設定されているので、注意すること（「第 II 部 履修登録について」の「履修前提科目の修得が必要な科目の一覧」を参照）。
- ◆ 「中級 1」「中級 2」「中級 3」のいずれかを修得できなかった場合、秋学期科目の登録修正期間に「中級 1 ・ 2 ・ 3」の中から、不合格科目と同名の科目を履修することができる。詳細は秋学期開始時に掲示を確認すること。なお、「中級 1 ・ 2 ・ 3」を活用して、「中級 1」「中級 2」「中級 3」いずれかの履修を秋学期に始めることもできる。
- ◆ 中級 1 ～ 6 をまとめて 1 年間で履修することが学習効果からみて望ましいが、学年をわけて個別に履修することもできる。

諸外国語選択科目

諸外国語中級プログラムに加え、語学力をさらに伸ばしたい学生のために諸外国語選択科目が設置されている。I 群言語には上級 1～6（※ 中国語のみ上級 1～7）、II 群言語には中級 1～4 の各科目が設けられている。

※ スタディ・アブロードプログラム（SA プログラム）に参加することによって認定される単位がある（詳細は 104～106 ページを参照すること。）

① I 群言語＜ドイツ語・フランス語・中国語＞

上級 A 1～6（3年次配当）と上級 B 1～6（4年次配当）は、同じ数字を付された A 科目と B 科目が合併で開講されている。「上級 A」を履修した学生が次年度以降に「上級 B」を履修することも、「上級 A」または「上級 B」のいずれか一方のみを履修することもできる。

長期休暇（夏・春休み）を利用し、社会学部が認定した語学研修機関（ドイツ、フランス）への短期留学プログラムに参加して所定の要件を充たすと、「ドイツ語海外研修」または「フランス語海外研修」の単位が認定される（詳細は「第 V 部 海外で勉強するために」の「単位認定海外短期留学制度」の説明を参照）。

授業科目	単位数	履修年次	備考
ドイツ語上級 A 1・2・3・4・5・6	半期各 2 単位	3 年次	3・4 年次 合併開講
ドイツ語上級 B 1・2・3・4・5・6	半期各 2 単位	4 年次	
ドイツ語海外研修	2 単位	2～4 年次	
フランス語上級 A 1・2・3・4・5・6	半期各 2 単位	3 年次	3・4 年次 合併開講
フランス語上級 B 1・2・3・4・5・6	半期各 2 単位	4 年次	
フランス語海外研修	2 単位	2～4 年次	
中国語上級 A 1・2・3・4・5・6・7	半期各 2 単位	3 年次	3・4 年次 合併開講
中国語上級 B 1・2・3・4・5・6・7	半期各 2 単位	4 年次	

※ 「諸外国語初級 A・B 単位認定試験」に合格し、かつ所定の条件を充たした学生は、1 年次から履修可（条件の詳細については学部掲示板にて発表する）。

諸外国語選択科目（I 群言語）：履修上の注意

上級 1～6（中国語は上級 1～7）は、その言語の中級科目をすべて修得していなくても履修できる。付された数字は履修前提を示すものではないので、履修の順序は自由である。

②Ⅱ群言語<スペイン語・ロシア語・朝鮮語>

各言語の中級科目は、その内容が講読、文法、表現・コミュニケーション、作文などに区分されている。『講義概要（シラバス）』を読んで、履修の参考にすること。

授業科目	単位数	履修年次	備考
スペイン語中級1・2・3・4	半期各2単位	2～4年次	
ロシア語中級1・2・3・4	半期各2単位	2～4年次	
朝鮮語中級1・2・3・4	半期各2単位	2～4年次	

諸外国語選択科目（Ⅱ群言語）：履修上の注意

- ◆ 諸外国語選択科目（Ⅱ群言語）の履修には、当該言語の「諸外国語初級 A・B」計4単位の修得が必要である（「第Ⅱ部 履修登録について」の「履修前提科目について」を参照）。
- ◆ 付された数字は履修前提を示すものではないので履修の順序は自由であるが、各Ⅱ群言語中級1（または2）履修後に当該Ⅱ群言語中級3（または4）を履修することが望ましい。